

エアゾール缶等による火災・事故をなくそう

《エアゾール缶等に関わる火災及び事故の発生状況》

(1) 火災の発生状況

エアゾール缶及び簡易型ガスこんろ燃料ボンベ（以下「エアゾール缶等」という。）による火災は過去 10 年間で 1,408 件発生しています。平成 21 年に 207 件の最多件数を記録しましたが、平成 22 年から年々減少し、平成 29 年は平成 20 年と比較して 65%減となる 72 件発生し 100 件を下回りました。（図 1 参照）。

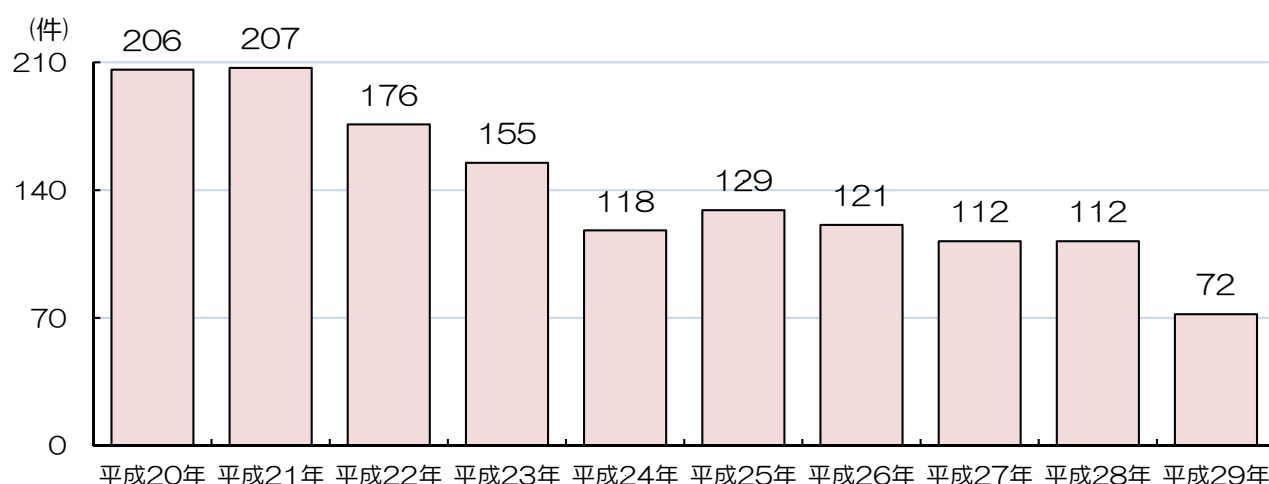


図 1 エアゾール缶等による火災発生件数の推移（過去 10 年間）

平成 29 年中のエアゾール缶等により、火災に至った主な原因で最も多いのは「穴開け」で 21 件発生し、過去 10 年間で 260 件となっています（表 1 参照）。

「穴開け」とは、エアゾール缶等を廃棄する目的で、缶に穴を開けることをいい、近くで使用していたガスこんろの炎等が、噴出した残存ガスに引火し出火します。

表 1 エアゾール缶等による過去 10 年間の火災発生状況

火災発生要因	平成 20 年	平成 21 年	平成 22 年	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	合計
清掃車	134	127	104	77	52	51	45	41	32	16	679
穴開け	26	21	23	23	26	30	29	25	36	21	260
その他（廃棄）	6	13	15	11	6	8	3	8	3	2	75
厨房器具近接	8	16	6	3	7	8	10	2	3	5	68
暖房器具近接	9	5	6	7	6	7	5	5	3	5	58
装着不良	5	3	3	9	4	7	8	5	4	4	52
その他 （取扱不適含む）	18	22	19	25	17	18	21	26	31	19	216
合計	206	207	176	155	118	129	121	112	112	72	1,408

次に、平成29年の「穴開け」21件に着目し、火災を発生させた行為者を、男女別の年代をみると、40歳代では男性が多く、40歳代以外では女性が多くなっています（図2参照）。

特に、40歳代男性の5件のなかには、ガステーブル以外にもガス瞬間湯沸器の火種がエアゾール缶等の穴開けで噴出した残存ガスに引火し出火したものがありません。

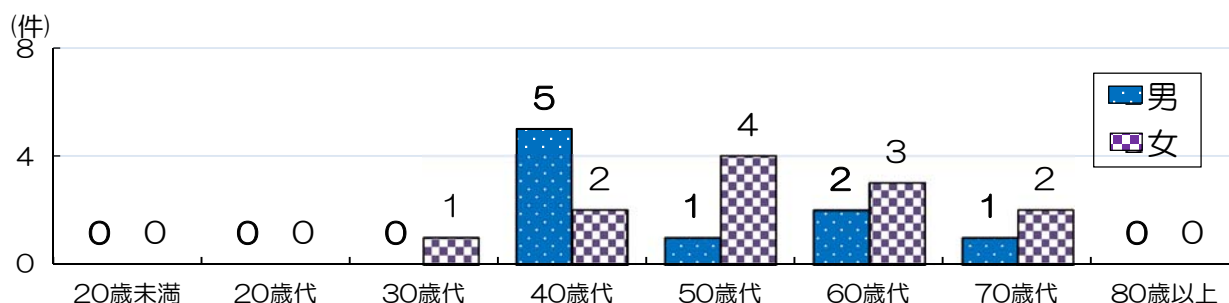


図2 男女別年代別火災発生状況

また、過去10年間のエアゾール缶等に起因する火災による死傷者は585人で、死者が3人、負傷者が582人発生しています。このうち中等症以上のけがを負った人（死亡を除く。）が約4割以上を占め、顔や気道などにやけどを負っています（表2、表3参照）。

表2 エアゾール缶等による火災の死傷者発生状況（過去10年間）

年 別	火 災 件 数 (件)	負 傷 者 数 (人)					死 亡	中 等 症 以 上 の 負 傷 者 数 (死亡を除く。)	中 等 症 以 上 の 割 合 (死亡を除く。)(%)
		合 計	軽 症	中 等 症	重 症	重 篤			
平成20年	206	74	46	20	6	2	1	28	37.8
平成21年	207	53	32	15	5	1	-	21	39.6
平成22年	176	64	38	19	6	1	-	26	40.6
平成23年	155	62	38	14	9	1	-	24	38.7
平成24年	118	41	17	16	8	-	-	24	58.5
平成25年	129	55	29	17	6	3	-	26	47.3
平成26年	121	60	31	21	7	1	1	29	48.3
平成27年	112	59	35	17	6	1	-	24	40.7
平成28年	112	73	41	27	4	1	-	32	43.8
平成29年	72	41	25	11	3	2	1	16	39.0
合計	1,408	582	332	177	60	13	3	250	43.0

- 軽 症・・・軽易で入院を要しないもの
- 中等症・・・生命の危険はないが入院を要するもの
- 重 症・・・生命の危険が強いと認められたもの
- 重 篤・・・生命の危険が切迫しているもの

表3 エアゾール缶等による火災の受傷部位別負傷者数（過去10年間合計）

受 傷 部 位	熱 （火） 傷	気 道 炎	挫 傷 （創）	咽 頭 炎	切 創	擦 過 傷 （創）	打 撲 傷	一 酸 化 炭 素 中 毒	骨 折	そ の 他	合 計
顔 部	179	-	1	-	1	-	1	-	-	2	184
気 道	77	9	-	5	-	-	-	-	-	7	98
手部（手のひら）	66	-	2	-	2	3	-	-	-	-	73
前腕部（肘から先）	62	-	-	-	-	-	-	-	-	2	64
上腕部（肘から上）	33	-	-	-	-	-	-	-	-	-	33
上 半 身	31	-	-	-	-	-	-	-	-	-	31
全 身	22	-	-	-	-	-	-	2	-	5	29
頭 部	17	-	-	-	1	-	1	-	-	2	21
下腿部（膝から足首）	11	-	2	-	-	-	-	-	1	-	14
足 部	9	-	3	-	-	-	-	-	1	-	13
そ の 他	18	-	1	-	-	-	1	-	-	2	22
合 計	525	9	9	5	4	3	3	2	2	20	582

(2) 事故の発生状況

エアゾール缶等による事故*は過去10年間で171件発生しています。平成29年は前年に比べ2件減少し、12件となりました。その他を除く過去10年間の事故原因を見ると、最も多いのは廃棄するためにエアゾール缶等に穴を開けた際に噴出した残存ガスに、ガスこんろ等の炎が引火してやけどを負うなどの事案で、44件発生しています（表4）。

（※「事故」とは、火災に至らず、やけど等のケガを負ったものです。）

表4 過去10年間のエアゾール缶等による主な原因別事故件数

主な原因	平成 20 年	平成 21 年	平成 22 年	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	合計	割合（%）
穴開け	7	6	8	2	10	1	3	—	5	2	44	25.7%
その他(廃棄)	1	—	1	—	—	2	2	1	2	3	12	7.0%
厨房器具近接	6	2	1	3	2	3	1	—	—	—	18	10.5%
暖房器具近接	—	6	—	—	—	—	—	—	—	—	6	3.5%
装着不良	—	—	—	—	2	—	—	—	—	—	2	1.2%
その他 (取扱不適含む)	26	17	9	4	6	4	6	3	7	7	89	52.1%
事故合計（件）	40	31	19	9	20	10	12	4	14	12	171	100.0%

《近年発生したエアゾール缶等に起因する火災・事件事例》



(1) 火災の事例

事例 1 (火災) ガス瞬間湯沸器を使用したまま、台所でスプレー缶の穴開けをしていたため、漏れた残存ガスにガス瞬間湯沸器のバーナの炎が引火し網戸等が焼損したものの。
(建物ぼや)
(40歳代 軽症)

事例 2 (火災) カセットこんろのボンベを交換した際に、ボンベの接続部不良によりガスが漏れており、気付かずにマッチで点火したため、漏れたガスに引火しカセットこんろ及びこたつ等が焼損したものの。
(建物ぼや)
(負傷者なし)

事例 3 (火災) 飲食店の厨房において、点火直後のガストーチバーナを大きく傾けたために、カセットボンベ内部の液化ガスが液体のまま噴出し異常燃焼を起こし出火したものの。
(建物ぼや)
(負傷者なし)

(2) 事故の事例

事例 1 (事故) ガスこんろに火をつけて調理しながら、シンクで制汗剤のスプレー缶を噴射してガス抜きを行っていたところ、ガスこんろの炎がスプレー缶のガスに引火し炎が一瞬燃え上がり、両腕をやけどしたものの。
(40歳代 軽症)

事例 2 (事故) カセットボンベからガスを抜くために底部に缶切りで穴を開けたところ、穴から出ているガスに給湯器の炎が引火し、両手をやけどしたものの。
(10歳代 中等症)

事例 3 (事故) ガスこんろのつまりを取るために、エアダスターを使用してすぐガスこんろを点火したところ、滞溜していたガスに炎が引火し、左手をやけどしたものの。
(50歳代 軽症)

《カセットボンベ・エアゾール缶の火災・事故を防ぐために》

- ① エアゾール缶には、LPG などの可燃性ガスが噴射剤として使われている製品が多いので、使用前に必ず製品に記載されている注意書きを確認する。
(エアゾール製品は、本来の用途以外に使用しない。)
- ② やむを得ず使い切らずに捨てる時には、火気のない通気性の良い屋外で残存ガスがなくなるまで噴射し廃棄する。
- ③ エアゾール缶等を廃棄する場合は、必ず中身を使い切り、各区市町村が指定するごみの分別を守って捨てる。
- ④ エアゾール缶等は、厨房器具や暖房器具付近の高温となる場所や、直射日光と湿気を避けて保管し、厨房器具や暖房器具等の付近では使用しない。
- ⑤ カセットボンベは、カセットこんろ本体に正しく装着されていることを確認してから使用する。
- ⑥ カセットこんろを複数並べて鉄板をのせたり、カセットボンベカバーを覆うような大きな鍋等の使用や、練炭等の炭おこしは、燃料ボンベが過熱され、破裂する危険があるので絶対に行わない。